

議会報告

生活者ネットワーク 3つのルール

選挙はカンパとボランティアで行います。

議員は最長3期でローテーション。議員を職業化せず、誰もが議員になることで特権化しません。

議員報酬は市民の活動資金として使い、お金の流れは公開します。



障がい者雇用の新たなアプローチ かとう涼子 「超短時間雇用」を実現させよう!

「障がいがあっても、社会の中で働きたい」

障がいのある人の働く意欲を実現できる超短時間雇用というしくみが、注目を集めています。

心身のコンディションに合わせて、1日1時間、週2日間程度なら働けるといふ方に対し、障がい特性に応じた多様な仕事を、ジョブ単位でマッチングしていく取り組みです。

すでに川崎市や渋谷区で先行事例がスタートしており、近隣では東久留米市の就労支援センターが、商工会加盟事業所と連

携しながら、新しい雇用の場を地域に拡げています。

ポイント

「仕事の切り出し」と「マッチング」

西東京市の障がい者数は、8,902人(2019年度末/身体・知的・精神)と、増加傾向にあります。一方、作業所などの働く場は他市と比較しても少なく、多様な働き方に応じた雇用の開拓が、第5期障害者福祉計画においても課題とされてきました。

障がい者の中には、人とのコ

ミュニケーションは苦手でも、自分のペースで働けるなら高い技術を発揮できる人がいます。繰り返しの仕事を得意な人もいます。そうした特性を企業が理解した上で、たとえば本のファイルムカバー貼り、美容院の清掃、金属部品の検品作業などを業務全体から切り出します。そして、それに特化した人材を就労支援機関がマッチングし、その後の定着支援を行うことで、超短時間雇用は障害者にも企業にもメリットのあるしくみとなるのです。

だれもが参加できる社会へ

西東京市でも、市役所内に就労訓練の場を創出するため、仕事の切り出しが検討されているそうです。庁内での就労訓練が職場雇用へつながり、その取り組みが民間企業にも広がれば、障がい者だけでなくひきこもりの方たちにとっても、社会参加の大きなチャンスとなります。皆さんの職場でも、障がい者の超短時間雇用をぜひ検討していただけないでしょうか?



増え続ける児童虐待 昨年度は19万件超え 過去最多

2019年度に全国の児童相談所が対応した児童虐待の件数は19万3,780件で、統計開始以来、29年連続で最多を更新しています。

なぜこんなに虐待が増えているのでしょうか?厚生労働省は「警察などの関係機関との連携強化や、虐待に対する社会的関心の高まりによって通告件数が増えた」と分析しています。子どもの目の前で暴力を振るう「面前DV」を警察官が通告す

社会全体で

子どもたちを守るろう

極端な無視、拒否的な態度など

コロナ禍でのストレス、子どもがはげ口になつてはならない

る件数が年々増加し、全体の約半数が警察からのものです。西東京市内の状況を確認しましたが、11月現在ですと昨年度1年間の件数を上回っているとのことですので、同様の傾向と推察されます。

で、著しい心理的外傷を与えるものが心理的虐待に当たり、全体の6割近くにのぼります。

地域に子どもや親子が安心して過ごせる場所を増やしたい

市内にある子どもや親子が一緒に過ごせる場所は、新型コロナウイルス感染症対策のため予約が必要になったり、定員の規制が厳しくなっています。こんな時こそ、子どもや子育てに行き



後藤ゆう子

一緒に活動しませんか?

生活者ネットでは、「子ども・女性」「福祉」「環境」「市民自治」の4部会が活動しています。気になるテーマについて学習会を企画したり、ときには調査活動を行うことも。それぞれ仲間を募集しています。ぜひ一緒に活動しましょう。お気軽にお問い合わせください。お待ちしております。

TEL: 042-453-4121
E-mail: nishitokyo@seikatsusha.net

サポーター募集中!

生活者ネットの活動を応援して下さる方はどなたでもOK! 毎月発行の「生活者通信」をはじめ、メールニュースなどの情報をお届けします。郵便局の払込取扱書の通信欄に「サポーター登録」とご記入いただき、氏名、住所、電話番号、メールアドレスをお書き添えの上、会費をお振込みください(年間:1200円)。

口座番号: 00170-9-36320
加入者名: 西東京・生活者ネットワーク

続! 西東京市の新型コロナウイルス対策

補正予算が可決

高齢者・障がい者施設にPCR検査を実施

グループホームや通所施設、ショートステイ、有料老人ホーム等の利用者および職員に、感染拡大防止目的でPCR検査が行われます。希望する施設に年度内1回のみ補助で、全額が都の予算によって賄われます。対象者は7,207人(高齢者施設:利用者3,043人、職員1,837人/障がい者施設:利用者1,613人、職員714人)、予算総額は1億4,826万円。

無症状者の早期発見で感染拡大防止につなげる「社会的検査」への第一歩とはいえ、たったの1回限りでは効果は限定的。訪問介護サービスが対象外とされたことにも課題が残りました。

在宅のケアラーが感染した場合の受け入れ体制を整備

家族を介護するケアラーが新型コロナウイルスに感染した際に、要介護高齢者・障がい者を緊急一時的に施設で受け入れます。高齢者には特養、老健を、障がい者には

障がい者福祉施設を、それぞれ月2名程度の枠で確保。PCR検査で陰性を確認後に受け入れとなり、施設入所が難しい方には在宅へのヘルパー派遣も可。

お問い合わせは、
■西東京市高齢者支援課
TEL: 042-420-2811 (地域支援係)
■西東京市障害福祉課基幹相談支援センター
TEL: 042-420-2805

ひとり親世帯に「臨時特別給付金」を再支給

ひとり親世帯の経済的な困窮が深刻さを増していることを受け、児童扶養手当受給世帯に対し1世帯5万円、第2子以降1人につき3万円が支給されます。先の8月に支給された方には再支給となるほか、家計が急変した方にも新規で支給。離婚が成立していない方やDV避難中の方も、まずは窓口にご相談を。

お問い合わせと申請は、
■西東京市子育て支援課 TEL: 042-460-9840